

学校教育課だより

かけはし

「管理主事訪問に同行して」

学校教育課長 鳥越 雅幸



早いもので、一年の終わりと師走を迎えました。中学校では、生徒の進路に向け、本格的な進路指導が始まりました。さて、御殿場市環境マネジメントシステム平成二十七年 度優良環境活動表彰で教育部 学校教育課が最優秀賞を受賞し、十一月十六日に市長より表彰されました。受賞は、「捨てるごみ 知恵と工夫で リサイクル」という環境標語と、廃封筒の再利用化について、一枚の封筒をぼろぼろになるまで利用していることが評価されたものです。

本年度の管理主事訪問は御

殿場が最後で、十一月十七日をもって終了しました。市内十六校を訪問し、授業を参観させていただく中で、これは、ぜひ、紹介させていただきたいと思う多くの表れがありましたので記載します。

〈授業〉

- 低学年の子どもたちがよく見えるように少し大きめに丁寧に書かれた板書。
- 学習課題、今日のテーマが明確に、構造化された板書。
- ネームプレート、児童の顔のプレートを使得って、一人一人の発言を大事にしている様子が伝わってくる授業。

学校教育課だより  
「かけはし」  
【第8号】  
平成 27 年  
12 月 15 日発行  
御殿場市教育委員会



- 教師に対して発言している児童に、子ども同士の関わりを意識し、友だちに伝えるよう促す先生。
- 中学校三年生が前のめりになり、身を乗り出す授業。
- 一人を誉めて、周りの子に気付かせる指導。
- 先生と子どもの良好な関係が伝わる先生の柔らかな表情。
- 日常のノート指導の積み重ねが伝わる子どものノート。
- 思わず、子どもたちが「えー、ちがうよ。」と叫ぶ、子ども前提を問う、教師のしかけ。
- 教師の魅力的な範読で子どもたちを資料の世界に引き込む道徳の時間の指導。
- 「第二十三回 道徳」と黒板に書かれた、三十五時間実施への意識の高さが伝わる道徳の時間の指導。
- 一人の事象への考え方を取

り上げ、学級全体で共有しながら、全体の課題に高めていく授業。

- 「教科書、ノートは駐車場に入れてね。」小学校低学年における机上整理の指導。

〈環境〉

- ほとんどの学校で見られた履物がきちんとそろったくつ箱。
- 前面がすっきりしている教室。
- 朱の入った習字、できばえだけでなく、製作のプロセスが評価されている図工の作品。
- 「○○運転はしません」「皆さん、交通事故注意」危機管理を共有する職員室の掲示物。

管理主事訪問に同行して、かつて、メディアアリテラシーの研修会で、「結局は、教師自身が最大の教育環境だ」と聞いたことを思い出しました。我が身を振り返る時に心にとめておきたい言葉です。

学力向上委員会

今年度も学力向上委員の皆様にご協力いただき、全国学力・学習状況調査、御殿場市の結果分析作業が終わりました。委員の方々には、お忙し

い中これまで四回の学力向上委員会に出席していた、毎回熱心に担当教科の分析作業に取り組んでいただきました。分析結果につきましては、先月初旬、「家庭向けリーフレット」、「平成二十七年全国学力・学習状況調査結果分析【学校用概要版】」として、すでに配布されております。

小学校、中学校ともに今年度の調査結果を見ると、ほとんどの教科で全国平均正答率を少し上回る結果となりました。学力向上委員会では、先生方がこれまでの調査結果を基に積極的に授業改善に取り組まれていることがこのような結果に結び付いているのではないかと分析しています。

御殿場市の子どもたちのより充実した学びを保障していくために、今月（今月と来月）、学力向上委員会が各校を訪問し、本年度の調査結果の詳細や御殿場市の子どもたちの課題改



善に向けた授業アイデア例について、説明していきます。お忙しい時期の研修となりますが、よろしくお願いたします。

【小越隆則】

教育指導センター訪問記③  
授業を振り返る

四月、緊張した面持ちで教壇に立ち、口調も自信なげだった新卒臨時講師の A 先生。徐々に子どもたちとの信頼関係が育まれ、授業をする表情や眼差しに余裕と少々の自信が感じられるようになりました。教職への熱意が着実な成長をもたらしています。

学校訪問は九ヶ月目を迎えています。指導員や学校によって若干の違いはありますが、これまでに対象となる先生方それぞれに十回前後の授業参観と指導をさせていただきました。授業力向上は一朝一夕にはならず、ゴールも見えないものではあります。当然、一度の指導助言ですぐに授業改善が図られるというわけにもいきません。しかし、経験は浅くても力を付けたいと努力する先生方の授業から、確かな成長と手応えを感じるこ

とができています。

訪問の中で印象に残った授業、心に留めて欲しいと思うことを記します。

一 教師の熱が伝わる授業

六年生の社会科の授業。導入で B 先生は戦時中の三つの手紙を黒板に提示し、それぞれの背景を考えてみようという投げかけました。「①は戦地の父から子へ」「いや、幼い子どもが父を慕って」「②は恋人に宛てた」等々、多様な解釈のできる手紙に興味を持ち、子どもたちは次々とストーリーを描いていきます。イメージを膨らませるうちに教室全体が戦時下の生活に思いを馳せていました。そこから導かれた

「戦争中、人々はどう暮らしていたのだろうか」は、子どもたちにとって興味深い本時の課題となりました。三つの手紙は B 先生が訪れた戦争博物館の資料です。先生は、授業の最後にその時に心に受けた衝撃を話しながら思わず声を詰まらせました。この資料を授業に生かしたいという熱い思いが、子どもたちにも伝わる授業でした。

二 導人の工夫

若手の先生方は「教えたい」という気持ちが高く、教師主導の授業になりがちです。特に先生が「今日の学習課題は〇〇です」と、課題を一方的に示す授業が多く見られます。

児童生徒の興味関心が高まり、そこに学びの必然性が生まれた時、子ども主体の授業がスタートすると言えるのではないのでしょうか。課題につながる導入の手立ては、驚きから疑問から困難さから既習事項のつながりから等々、様々あります。教材研究はもちろん自分の経験や知識も駆使して、まずは授業の入り口である導入の工夫に努めたいものです。

三 準備と反省

「今日の授業はどうでしたか」と尋ねると、授業と子どもを見つめて多くを語る事ができる先生と、そうでない先生がいます。

授業の反省（成否も）には授業への思いが表れます。「この力を付けよう」という強い思いで準備した授業は、その思いと準備の分だけ反省が生まれるはずですが、「こんな授業をしたい」を前提に、反省と実践を繰り返すことが授業力向上につながります。自

分の授業を語るに足りる強い思いと十分な準備で授業に臨むことが大切だと思います。

【岩田京子】

支援をつなげて

今年度より各学校からの要請に応じて、特別支援の巡回指導を行っています。主に授業、休み時間の様子を観察し、子どもたちの困り感を捉え、支援の仕方を先生方と一緒に考えていきたいと思っ

ています。また、校内支援委員会やケース会議にも参加させていただく機会がありました。多忙な中でも、一人の児童生徒のために真剣に向き合う先生方の熱意に特別支援教育は支えられています。

子どもたちの特性を把握し、その子に合った支援をしていくことは時間を要します。長いスパンで子どもの成長を支援していくために、個別の指導計画が作成されています。各学校でどのくらい活用できているでしょうか。訪問した際に見せていただくと、実

に確かな支援のヒントが多く書かれています。それを継続することで、担任やクラスが変わり、環境が変わってもうまく適応できている姿が見られました。しかし、指導計画に書かれているにもかかわらず、それを生かしていない場合は、子どもの困り感が大きくなり、落ち着かない様子が見られる場合もあります。もったいないことです。ぜひ、今年度行った支援方法、成果や課題等をできるだけ具体的に記録してほしいと思います。例えば、○席は前の方にし、教師の声掛けがしやすい位置がよい。○落ち着かなくなったら、十分間程度、図書室でクールダウンさせる。○書くことが苦手なので、各課題は半分手程度の量にする。○指示はできるだけ短くし、くどくど言わないようにする。このように具体的に示すことで、その子にマッチした適切な支援が継続されるのです。一つ一つの積み重ねで子どもは確実に成長します。それを現担任から新担任へ、小学校から中学校へとつなげてほしいと思います。

【巡回指導員 瀬戸祐子】

